

# あなたの街に 「居場所」を 作りませんか？



料理やカフェで  
楽しむ

歌やレクリエーション  
で元気になる



交流の場で  
つながる



# はじめに



近年、高齢化社会の進展はますます進み、本市における高齢化率は平成28年3月末現在で28.9%、3.5人に1人は高齢者となっております。

そのような状況のもと、本市におきましては市民の皆様が健康で生きがいをもち安心して暮らせるまちづくりを目指し、平成27年3月に第3次和歌山市地域福祉計画「わかやま・元気ふくし計画」を策定いたしました。

地域福祉とは、地域で困りごとを感じている人を市民、団体、事業者、市、関係機関などが連携して、人と人とのつながりを大切にしながら地域で力をあわせ助け合い、皆で取り組み解決していくことをいいます。

この計画の中で、「地域福祉の担い手と協働のしくみを広げる」ことをこれからの目標の一つに掲げており、今回の担い手養成講座はその第一歩となっております。

今回の講座では地域の居場所づくりに焦点を当て、講義や実地見学を通して「地域福祉の担い手」となるためのノウハウを皆様に学んでいただきました。

これから受講生の皆様にはそれぞれの地域に帰っていただき、居場所作りや支え合いの活動グループを立ち上げる等の実際の活動に移っていただくことを期待しております。

また、講座内容を記した本冊子が、今度は次の担い手を生み出す手助けやヒントになれば幸いです。

市民の皆様全員が地域で活躍される社会を目指し、和歌山市も鋭意取り組んでまいりますので、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

和歌山市長 尾花 正啓

# もくじ

講座の概要	1
地域にある資源の再発見をしよう	2
実際に居場所を目で見て体験する	3
福祉とは、「ふ」だんの、「く」らしの、「し」あわせ	4
「居場所」は想いだけではつukれない	5
受け手が興味を持てる情報発信が大切	6
受講者の声	8

# 講座の概要

本講座の概要をご紹介します

## 地域福祉の担い手養成講座 ～あなたの街に「居場所」をつくりませんか？～

いま、「住民主体の地域づくり」として、「地域づくり」をその地域で暮らす住民のみなさん自身の手で担う取り組みが全国各地に広がっています。福祉の分野においても、行政や社会福祉協議会、福祉事業所など福祉の専門家に限らず、住民のみなさんも「地域福祉の担い手」として活躍する事例が急増しています。

今回の地域福祉の担い手養成講座は、人口減少・ご近所づきあいの希薄化などといった地域の課題に対して「居場所」を開設することで解決する手法など、地域福祉の中核的な人材を広くまちづくりの観点から養成するための講座として5回の連続講座の形で、座学・見学・実習など多彩な方法で開催しました。

### 第1回 7月22日(金)

1. 開講式
2. お互いを知ろう  
進行:NPO法人WACわかやま理事長 中村 富子さん
3. ワークショップ「地域福祉に関する地域資源を考える・開設したい地域を知る」  
講師:アクト研究室 鳥淵 朋子さん



### 第2回 7月29日(金)

- 見学その1 「高松第1区げんき会」 (和歌山市新堀自治会館・井指 加奈子さん)  
見学その2 「つどいbyカフェうらら」 (和歌山市弘西・井本 典子さん)  
進行:アクト研究室 鳥淵 朋子さん  
実習 「ほっこりさん」 (和歌山市みその商店街西通り)  
アドバイザー:「ほっこりさん」スタッフ



### 第3回 8月19日(金)

1. 講義「これからの地域福祉に大切な視点、地域で求められるもの」  
講師:和歌山大学経済学部准教授 金川 めぐみさん
2. 活動報告「有功地区の活性化につながる12ヶ所の居場所」  
講師:NPO法人ほっとタウン有功副理事長 宮本 佳子さん
3. 活動報告「中心市街地に作られた居場所としての役割」  
講師:NPO法人WACわかやま理事長 中村 富子さん



### 第4回 8月26日(金)

- 講義「居場所の作り方」& ワークショップ「心と頭の整理:事業計画を作ってみよう」  
講師:和歌山県NPOサポートセンター センター長 志場 久起さん



### 第5回 9月9日(金)

1. 講義・ワークショップ「夢を形にする」魅力的なチラシなど広報資料の作り方  
講師:和歌山県NPOサポートセンター センター長 志場 久起さん
2. 修了式&交流タイム



本講座にご参加くださったみなさん。  
本書は、講座のエッセンスをギュッと凝縮し、「地域の居場所」の必要性や、  
つくるために必要なノウハウなどをとりまとめたものです。

# 1 地域にある資源の再発見をしよう

7月22日(金) 13:00～16:30 講義とワークショップ(和歌山市中央コミュニティセンター)



鳥淵さんからは「自分たちも重要な地域資源であり、助け合い活動のきっかけとして居場所づくりから始め、仲間を増やし、地域の人とつながりながら発展していくことに期待したい」というお話がありました。



開会に先立ち、NPO法人WACわかやまの中村富子理事長の司会で、受講者のみなさんから自己紹介をいただきました。みなさんが考える「居場所」への熱い想い、そして本講座への期待などを時間いっぱいお話いただき、最初から熱のこもった意見交換ができました。

## ●ワークショップ コミュニティカフェを開設しようとしている周辺の資源を考えてみよう!(アクト研究室・鳥淵朋子さん)

最初に、地域福祉における地域資源とは何かを考えるために、地図を示して、和歌山市全域を「面で捉える」という説明がありました。

その後、和歌山市長期総合計画、和歌山市の地域福祉計画におけるエリアの考え方などの解説につづいて、以下の表を参考に、身近な地域資源を考えるワークシートに各自が記入しました。

### 【分野別の地域資源の例】

分野	具 体 例
人 材	主婦、企業OB、大学生、高校生、留学生
文 化	民話、祭り、伝統技術、寺社、食文化
施 設	町家、蔵、学校、公民館、空店舗
コミュニティ	町内会、集落、ボランティアグループ
自 然	河川敷、遊休農地、散歩道、砂浜
そ の 他	ショウガ、パイル産品

それらを元に、各自が考える「助け合い活動」や「居場所づくり」の構想について意見交換を実施。

最後は、和歌山市役所、支所・連絡所や地域包括支援センターなどを示した大きな和歌山市全域地図に自分たちが関わる場所にカラーのシールを貼り、それらの位置関係などを把握。そして、地域資源をさらに増やし、地域資源マップをつくる「はじめの第一歩」を確認しました。



## 2 | 実際に居場所を目で見て体験する

7月29日(金)10:00~16:30 見学(「居場所byカフェうらら」「高松第1区元気会」)&実習(「ほっこりさん」)

### ●見学「居場所byカフェうらら」・「高松第1区元気会」と、実習「ほっこりさん」

受講生が2班に分かれ、1班は午前中に和歌山市弘西で開設されている「居場所byカフェうらら」と新堀の「高松第1区元気会」を見学。午後からは、みその商店街内に開設されている居場所「ほっこりさん」で、居場所に来られる方への対応の実習をしました。

2班は午前中に「ほっこりさん」で実習の体験を行い、午後からは「居場所byカフェうらら」と「高松第1区元気会」を見学しました。



和歌山市内の移動はマイクロバスを使い、昼食は「ほっこりさん」のスタッフ手作りのお弁当に舌鼓、居場所で作られるランチをみんなで頂きながら学習と交流を深めました。

2ヶ所で実施された見学と学習は、居場所づくりや開設の経緯、そして継続していくための心がけや工夫など、みんながとても気になっているところのお話を重点的に説明していただきました。

参加した受講生の方からは、運営のための必要経費や継



続するための秘訣など現実的な質問が多く、居場所の運営主体のみなさんからは、初期投資は自分の保険を解約しましたとか、継続するには仲間と一緒にとか、一つの事を確実にとか、具体的な内容を本音でお答えいただきました。みなさん「なるほど」といった表情でうなずいていました。

移動中のバスの車中では、見学した場所についての感想や自分の夢を近くに座った方と語ったり、初日とは違い和やかに打ち解ける姿が見られました。

実習先になった、ふれあいの居場所「ほっこりさん」では、居場所に来られる方たちとの日ごろのふれあいの様子もスタッフから学びました。進んで体験してみようという姿勢が感じられ、受講生のみなさんの居場所づくりへの熱意が伝わってきました。

第2回は朝から夕方まで居場所の見学・学習と実習、というハードスケジュールでしたが、それぞれの思いを形にしていくための大切なものが、具体的に浮かび上がった日になったようです。



# 3 福祉とは、「ふ」だんの、「く」らしの、「し」あわせ

8月19日13:00～16:30 講義と事例報告(和歌山ビッグ愛9階会議室)

## ●講義「これからの地域福祉に大切な視点、地域で求められるもの」(和歌山大学経済学部・金川めぐみ准教授)

日本の高齢化が進んでいますが、高齢者の地域活動参加意欲や世代間交流の希望も増大しています。一方、2010年頃以降、高齢者の孤立死・孤独死の存在がクローズアップされています。また、若者や子育て世代、子ども、障がい者なども含め、社会全体で「孤立化」が課題となっています。

福祉とは「ふ」だんの、「く」らしの、「し」あわせ、と考えています。地域の高齢者に限らず、子ども、障がい者、一人暮らしの方、家族で暮らす方、施設で暮らす方、会社勤めの方など誰もがふつうに幸せに暮らせるようにするのが地域福祉です。

その「地域福祉」には「ひと育て」「ネットワーク育て」「まち育て」の『3つの育て』が必要で、それらをうまく回すことが大事です。さらに地域福祉を領域で区分すると、「自助」「互助」「共助」「公助」の『4つの助』があり、これらが相互により協働の形を保ち、お互いに支えあうことで、『3つの育て』もまわります。

これからの福祉は、縦割り行政の「既製品」の制度から「自助」「共助」に注目し、地域で考えて地域に合わせる「オーダ



ーメイド」の支援を進め、地域福祉の隙間をつなぐ時代へと変わらなければなりません。

2016年7月、厚生労働省は「我が事・まるごとプロジェクト」を発表しました。このプロジェクトの最大の課題は、地域ごとにボランティアなど支援の担い手を確保すること。「理想的だが、自治体によって住民を巻き込む力やマネジメント力に差があり、地域のリーダーが育たなければサービスはむしろ低下する懸念がある」という指摘も出ています。

その点「地域の居場所」は、人やネットワークが育ち、問題解決の場として、社会的孤立の抑制や、公助と自助の隙間を埋めるといった機能を果たせることが期待できます。地域の

居場所は、地域の個性や色が大事で、急がず、無理しないことです。でも、誰かが…では遅いから、“私たちが”“みんなで”と意識を変化させ、参画していかなければならない。多様な人の存在が私たちの社会を強く、元気にするものと期待しています。

## ●事例報告「和歌山市有功地区の活性化につながる12の居場所」(NPO法人ほっとタウン有功・宮本佳子副理事長)



2007年から、住民有志で有功地区内で住民同士の支え合いを促すお手伝いをする活動を開始し、2010年にNPO法人化。会員相互間の助け合い、勉強会、いきいきサロンの開設・運営、友愛訪問、福祉有償運送事業などをおこなっています。

いきいきサロンは、12か所にまで増え、各サロンは自分たちがやりたいことを自由にやっています。有功地区社協を母体として、地域の民生委員、児童委員、自治会、地域包括支援センター、長寿会など、地縁団体の支援のもと、住民主体で運営しています。

「地域福祉ネットワーク」づくりとして、ボランティアリーダー養成講座を開催していますが、前は男性が多く参加するなど地域に浸透してきました。課題は山積みですが、しめ縄作り、夏祭り、花見など異世代間交流にも力をいれており、地域の共生と安心の居場所づくりを支援しています。

## ●事例報告「中心市街地につくられた居場所の役割」(NPO法人WACわかやま・中村富子理事長)

第2回で見学した「ほっこりさん」の役割について改めて解説がありました。

### ●主な質問

Q. 男性ばかりのサロンがあると聞いたのですが？

A. 全国にあります。例えばマージャン教室など、男性の興味を引きやすい内容を盛り込んでいます。

Q. 居場所を開設したいと思っているが公的支援は？

A. 例えば、富山型デイサービス「このゆびとーまれ」は、行政が金銭とシステムづくりの両面で支援。岬町「見守りキッズeyeボランティア」は、岬町社協が支援。新潟「うちの実家」は公的支援はなし。財団等から助成金をもらっている団体もあります。

# 4 「居場所」は思いだけではつukれない

8月26日13:00～16:30 講義(和歌山市中央コミュニティセンター)

## ●講義「地域の居場所のつukり方」(わかやまNPOセンター・志場久起副理事長)

今回の連続講座は「地域の居場所」をつukりたい、もしくはつukろうと考えている方が多いのですが、その考え方はとても素晴らしいことですが「地域の居場所」の受益者はあくまで利用する地域住民であることはおさえておきたいところです。ボランティアやNPOもそうですが、運営する側は「こうしたい」という思いが強いことが多く、ややもすると善意の押しつけになってしまう可能性があることに注意したいですね。

一般に、NPOのように積極的に事業をおこなう非営利組織の財源は①会費、②寄附金、③補助金・助成金、④事業収入、⑤その他、の5種類にわかれます。設立当初は資金の持ち出しや借り入れもあるかもしれませんが、継続的に居場所を運営することが第一なので、複数の資金源を想定するのがいいと思われます。仮に、運営スタッフは全員ボランティアであったとしても、運営にはそれなりの資金がかかることに注意が必要です。

また、運営資金だけではなく、活動を応援してくれる人を募ったり、運営に必要な場所や資材をどう集めるか、先行事例などの情報をどう把握するか、といったことを検討するのも大切なことです。

### 【事業化までの主なポイント】

① **事業概要の検討** まずは「地域の居場所」の大まかな概要を検討することが重要です。その際、類似の事例を調べてみるとヒントがみつかるかもしれません。先行事例のヒア

リングなども有効。また、運営に必要な資源(ヒト・モノ・カネ・情報)があるのかもチェック。

② **開設の準備** 開設を考えている地域に「居場所」を利用してくれそうな人がどれだけ住んでいるか、などといったできるだけ客観的なデータがあると考えやすくなります。

そのうえで、どれくらいの開設頻度で、どのようなメニューをいくらで提供すればいいかを見極めていくことが大切です。アイデアを「6W2H(誰が、誰に対して、どこで、何を、なぜ、いつ、どのように、いくらで)」の形で書き出すと整理しやすいのですが、初めはあれもこれもと手を広げず、堅実に進めて、軌道に乗った段階で新しい事業を展開するのがコツ。

また、飲食物を提供する場合は、食品衛生責任者を置いたり、飲食店や喫茶店の営業許可申請をしたり、といった法的手続きが必要になることがあります。スタッフを雇用したら源泉徴収や社会保険等の加入手続き、事業内容によっては法人税等の納税手続きなどが必要になるケースもあるので、場合によっては関係機関や専門家への相談も忘れずに。

③ **事業開始に向けて** まずは1か月あたりかかる費用を算出して、それに対していくら収入が見込めるかを想定しながら、そういった資金をいくら得る必要があるかという目標を立てると考えやすいと思います。有償サービスを提供する場合は対価をいくらに設定するか、という検討が必要です。

基本的には、毎月必ずかかる固定費(家賃や光熱水道費

など)をできるだけ抑えること、有償のサービスを提供する場合は原材料の仕入れ原価を元に、利益率をどう設定するかの見極めが大切になります。

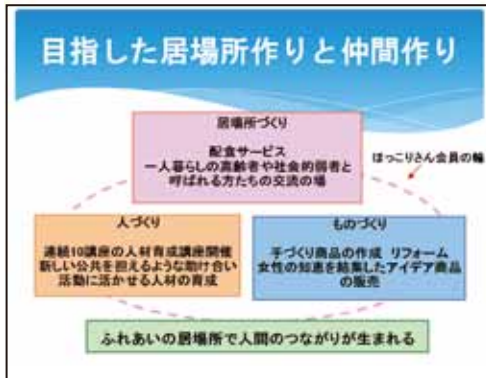
これとは別に、事業運営のために税務や法務の専門家、提供するプログラムの充実のために福祉やレクリエーションの専門家との人的つながりをもっておくといいでしょう。

「地域の居場所」ということで、できるだけ低廉な価格でサービスを提供したいという心理が働くのは当然ですが、かかる費用を回収できないことには事業が継続できず、結果として地域に対して不利益を与えてしまうことになります。継続性をどう担保するかが大事です。

◆NPO法人ほっとタウン有功の活動特徴

介護保険では出来ることに限りもあり、地域関係団体との連携・協働した活動を実施

- 歩いて通えるサロンづくり  
・地域の交流の場となっている
- 居場所づくり  
・話し相手がいることで、ふれあいや支え合いが買まれている
- 自立生活のお手伝い  
・身の回りや買った時の共平をいやすことで、もしもの時に大きな安心感となっている
- 移動サービス  
・丘陵地に暮らす高齢者や障がい者の買い物、通院など移動お手伝いから自宅での引きこもり予防や見守りとなっている
- 子どもたちがすくすく育つ思いの場づくり



◆今後に向けて

自分たちの団体だけでなく、多様な団体と一緒に連携や協働することで、有功地区に住んでいてよかったと思える活動を展開できればと思います。

**い** ・いきいきと誰もが

**さ** ・さえあいながら

**お** ・おもいやりのあるまち

を目標して活動に取り組んでいきます。

ひとりぼっちの高齢者を作らないための居場所の役割

- ・高齢者が引きこもりになるきっかけ  
病氣、体の衰調、怪我、配偶者の病氣や死
- ・居場所に関わっていると周囲の人たちが気づくことも
- ・助け上手と助けられ上手の関係が作りやすい
- ・地域の居場所が繋ぐ近隣のネットワーク  
ご近所、自治会、民生委員、地域包括、地区社協、老人会、婦人会、かかりつけ医等の医療機関

第3回の(左)有功地区、(右)ほっこりさんの事例報告からの抜粋

# 5 受け手が興味を持てる情報発信が大切

9月9日(金) 13:00~16:00 講義と修了式(和歌山ビッグ愛9階会議室)

## ●講義「魅力的な広報資料の作り方」(わかやまNPOセンター・志場久起副理事長)

わたしたちの周りには本当にたくさんの広報媒体がありますが、それぞれ長所と短所があります。各媒体の特性、予算、日程など様々な制約のなかで最適な手段を見つけることが重要です。

また活動の主催者側は、たくさん伝えたいことがある、というケースが多いのが実情。主催者側は活動をはじめのきっかけがあり、事業を組み立てて、こういう人に来てほしい、という手順を踏んでいるので、伝えたいことはたくさんある、というのはもちろんですが、その情報を受け取る側はそういった経緯をまったく知らないというケースが多いわけです。したがって、発信する情報はできるだけ絞り込んだほうがよいです。できるだけ少ない文字数で、自分たちの強み、情報を受け取った人が得をするとと思わせるような表現ができる



となおいでしょう。

広報する際には、事業のタイトルや、その目的やねらい、日時・場所・連絡先など、様々な要素がありますが、受け取る人が不安

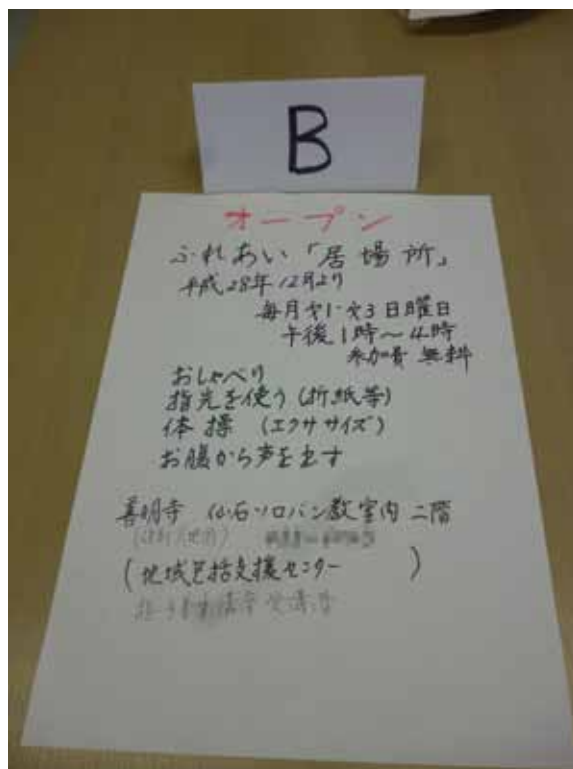
取り除くことが大事。例えば開始時間が書いてあるのに終了時間が書いていなかったら、次に予定があるような人は参加しづらいですね。交通機関が近くにない場所であれば、駐車場の有無等が記載されていないと自家用車で行ってもいいものかどうかわかりません。そういったことを受け取る側の立場に立って考えることで、情報を受け取った人の不安を取り除くことが大事です。できれば、活動とは関係ない第三者や家族にチラシを見てもらって、わかりにくいところ、不安に思うところなどをチェックしてもらおうといいでしょう。

広報、特にチラシやポスターなどは手書きでもいいのですが、特にチラシはパソコンで作成すると、文章をマスコミ向けのプレスリリースやブログやSNSなど他の広報媒体にもすぐに使い回しができて効率がいいのでおすすめです。

なお、広報は非営利活動においてはどうしても優先度合いは下がりがちですが、広報をしないことには活動や支援の輪が広がりません。また、広報をするにあたって様々な材料を探す取り組みは、自身の活動を振り返って俯瞰的にみることが出来るメリットもあるので積極的に取り組みたいところです。

## 受講者のみなさんがチラシを作ってみました!

これまで5回の講座を受けて、こんな「地域の居場所」があればいいな、というイメージをグループごとにチラシ形式にまとめていただきました。ここでご紹介します。





C

**リ・ポーンハウス**

ここに来ると生きがいの世界が！

- ★ 全専念にお知らせ  
新鮮な魚をみんなでお楽しみ！  
みんなが喜ばせながらお楽しみしましょう
- 月○日 19時より15時まで  
定人数 50名 お茶のみ付
- ★ お帰りのプレゼント  
お礼 健康体操体験
- 月○日 あやつと飲み会 人数 200名

今までは... 地域で... 生きがいの世界が！  
生きがいの世界が！  
生きがいの世界が！

地図



グループごとに創意工夫を凝らした内容のチラシができあがりました。なかにはもう開設する気満々のチラシも?!

D

**虹いろカフェ開設**  
みねのたまり場

- ・開催地 6733大会
- ・ビッグ大会
- ・毎週金(3次落着)
- ・開1年定規下

日時 平成29年10月20日 オープン  
開店時間 10時～15時  
場所 山吹丁2丁目3-1 (水産ビル)  
参加費 300円(お茶別)

主催 城北第2区自治会 佐藤 和歌山市  
連絡 専務所 福田輝雄 TEL: 942-2217  
和歌山市 地域福祉のまちづくり協議会 事務局

地図

E



**男の料理教室**

料理の心と技術を家でできる!!

日時 2016年9月9日(金)  
会場 ビックホール 11時  
参加費 500円(含材料費)

<メニュー> エアロン、玉子炒(お好み)  
お茶、デザート

申し込み 問い合わせ  
0742-2217

食事作りは仲間作りは長生きの第一歩。

主催



F

**小ねあいカフェ**  
あがらっ衆

2016 10 1 土 オープン

時間: 9:00～17:00 (年中無休)  
各種相談 支援 随時開催して頂

メニュー

- アイスメニュー
- コーヒー(2杯 742円) 1000円
- 紅茶(2杯 742円) 1000円
- フローズンアイス 1000円
- オレオレアイス 1000円
- アイスメニュー別
- ケーキメニュー
- チーズケーキ 700円
- チョコレートケーキ 700円
- ロールケーキ 700円

地図

チラシはグループごとに発表。地域のみなさんにどうやって居場所に集まっていたか、知恵を絞った内容となりました。



G

**第五回 健康体操**

どなたでも(さる簡単な体操で)  
みんなと一緒に楽しんで頂

日時: 平成28年9月9日(金)  
AM 9:00～10:00

場所: 和歌山城石ノ丸広場  
参加費: 無料

問合せ 地区: 桂江社 TEL: 942-2217  
主催: 健康体操考証会 G707  
後援: 和歌山市地域福祉課

地図

# 受講者の声

本講座を受講された方からの声をご紹介します。

## 小渕 道江さん

看護師として週2回程度、ディサービスに勤務しています。そこで、お年寄りが抱える問題等を見聞きするなかで、何か自分に出来る事はないだろうか?と考えるようになりました。

大阪から転居して2年あまりで、まだ、地域に溶け込んでいるとは言えませんが、地域活動にも出来るだけ参加したいと思っていたところで、今回の「居場所づくり」の講座を知り、きっかけになればと思い参加しました。

地域には、幸いにも自治会館があり、夏祭り、カラオケ、健康体操、手芸等に利用されています。

まずは、協賛者を募り、男性の料理教室を定期的で開催し、そこから居場所づくりに繋げていけたらと考えています。自発的に楽しみながら集まる場所を地域の人達と共に作る事ができたら、そこが自分自身の居場所にもなるのではと思っています。



## 仙石 洋子さん

14年前から和歌山市のつどいの家「和(わ)」として自宅の2階を使ってサロンを開いています。習字、そろばん、囲碁、トールペイントなどの教室を開いています。遠方から来られる人もあって、結構賑わいのあるサロンとして続けてきました。

しかし、通ってくる方達も、高齢になって参加できないなど様々な事情が出てきて人数も減り、近隣の方達が多くなってきています。サロンとして使わない曜日や時間帯を利用して、ご近所の高齢者のみなさんと一緒に過ごす居場所にしたらどうかと考え今回の講座に参加しました。

近いうちに月2~4回程度の日曜日、1時から4時頃を居場所としてオープンしたいと思っています。10~12,3人程度の人に利用してもらえそうで、折り紙やゲームで指先を使ったり、お腹から声を出して般若心経を練習したり、健康体操などもチャレンジしたいと考えています。



## 中村 節子さん

現在95歳の母が一人で住んでいる平屋の家を居場所にしたいと考えるようになっていたところ、今回の講座を知り受講しました。とても参考になることもあり、実現できるかもしれないと思うようになりました。

実務経験はないのですが、介護や調理師の免許などがあり、何か役立てたいと思いながら、気に入ったカフェに食事に行ったり、盛りつけが気になるお店を見つけたりと気持ちは居場所に惹かれています。

今はパートで時々仕事をしてはいますが、この地域の高齢者を見てみると、みんなで楽しく過ごしたりしゃべったりする場所があれば、介護施設に入所するのが先延ばしになったり、施設に入る事になるまで自分の地域でみんなと楽しく過ごす事ができるのではと考えています。実現は2~3年後になるかもしれませんが、今回参加して良い刺激になりました。



## 秦野 和也さん

現在、居宅介護支援センターで高齢者介護に取り組んでいますが、デイサービスの利用を拒否される高齢者、あるいは、デイサービスを利用していらっしゃる高齢の方たちのことが気になっています。

それは全ての利用者に言えることではないと思いますが、本当に自ら進んでサービスを利用しているのだろうか...ということ。「家族が行くように望むから」「わざわざ車で迎えに来てくれるから」と言った理由の人が少なくないのではと考えるのです。

老若男女を問わず、支えを必要とされる方々が、自ら行きたいと思う場所、行ったらやってみたいと思うことがある場所、ランチやお茶を頂きながらおしゃべり仲間も出来る場所、行けば元気がもらえる場所。そんな居場所が自然とあればいいと考えています。

自宅の一部を利用して開きたいと思っはいるのですが、家族の了解も必要です。すぐには厳しいかと思うのですが、今回の講座で夢としてでもしっかりと描けたので、いつか必ず実現させたいです。



### 腹巻 宏一さん

来年4月には目的の居場所を開設したいと考えています。全国でも珍しい柔道学習塾を立ち上げた26年前から、文武両道を目指し柔道の稽古と勉強を併せ持つ町道場で指導を続けています。通ってくる子どもたちの送迎をする祖父母のみなさんに70畳の道場に入ってもらい、柔道の体捌きの技を活かした全身運動と脳への刺激、それに万が一に備えての転び方(受け身)の練習をしてもらいたいと、手や足の上手な使い方プログラムを考えていました。

まずはそうした祖父母を対象に、その後は地域の方々に広げていき、そこが地域の居場所として交流の場になればと考えていたところ、この講座の開催を知りました。

妻も2人の娘も柔道に明るいこともあって家族は最大の理解者です。

「近くにこんな道場があるって良いね」と地域の人に言ってもらえるように頑張りたいです。



### 宮下 啓司さん

雑賀崎の地域を元気にするための「和歌の浦Mプロジェクト」や「空き家プロジェクト」など様々な仕掛けを仲間と共にやっています。

2011年にはMプロジェクト・リボンハウスに、東日本大震災の被災者を受け入れました。それを機会にまちづくりに興味のある学生や若者も訪れるようになってきましたが、地域の人たちとの交流はまだまだこれから。

雑賀崎地域は海に面した崖のような土地に家が建ち並んでいます。そして、ここに古くから住む人たちはこの地域を愛し坂道を歩くため足腰も丈夫で、とても元気。反面、若い人たちの定住はなかなか進まず、人口も往時の3分の1に。高齢化への対応は急がなければなりません。とりあえずはリボンハウスを居場所として活用することを考えています。子どもの頃、観光で栄えたこの地域のために、コミュニティの交わりが他地域より濃いという利点を、居場所作りでなんとか生かしたいと考えています。



### 福田 輝雄さん

高齢者生活共同組合(高齢協)で生きがいづくりを担当する活動をおこなっています。

表具師として長年活躍してきましたが、その仕事は息子が継いでくれました。一息入れたところで高齢協と出会い、これからはお世話になった社会への恩返しをしたいと頑張っています。

居場所づくりは高齢協が中之島に「紀和庵」を開設した時に、改装を全面的に手伝った経験から、自分の住む城北地域にも是非つくりたいと思い、今回の講座に参加しました。しかし、自分が住む地域をみると、住民同士のつながりが薄いのが気になります。

地域には空き家はあるけれど、ちょうど手頃な場所は見つかっておらず、まだまだこれから。

「紀和庵」で経験している夏の流しそうめん、年末の餅つき大会、音楽をきく会などを、城北地区の人たちとも一緒に楽しむことができたら…と思っています。



### 山岡 英夫さん・山岡 綾子さん

夢の実現に一歩ずつ進めるヒントにと、夫婦揃って講座に参加しました。来春、今住んでいる高松地区から毛見に引っ越す準備を整えています。

夫は趣味のボウリングの技術をさらに磨いてティーチング・プロボウラーの資格を取得し、多くのボウリング仲間と楽しい時間を過ごしたいと考えています。妻はコーヒー豆の焙煎をしていた父の老後の夢であった「気ままな喫茶店」、それを叶えることができなかつた父の代わりに、女性や高齢者の方々が、お一人でも気軽に立ち寄り、お喋りが出来たり手芸や書道などの教室ができるようなカフェを開ければと考えています。

今後数年かけて、様々な情報を集め、自分磨きの年月に充てる予定です。今回一緒に受講することができたことで、自分たちにできる範囲で、今回勉強した「居場所」に近い物を作り上げることができれば、元気で楽しく暮らせるのではないかと感じました。





## ～あなたの街に「居場所」をつくりませんか？～

### 地域福祉の担い手養成講座事業報告書

---

発行日 平成28年12月  
主催 和歌山市 福祉局 社会福祉部 高齢者・地域福祉課  
〒640-8511 和歌山市七番丁23  
電話 073-435-1063  
メール koureisha@city.wakayama.lg.jp  
運営・発行 特定非営利活動法人 WACわかやま  
〒641-0051 和歌山市西高松2-1-4  
電話 073-414-1189  
メール cfare601@jtw.zaq.ne.jp